

## 1. はじめに

### 1-1. 研究の背景

近年、若者の地方離れが全国で著しく、地方の活力低下が問題となっている。

大学や企業などが大都市圏に集中している社会構造が要因と考えられ、私の地元である茨城県日立市もこの課題を抱えている。

### 1-2. 研究の目的

若者をただ地元で“残そう”とするのではなく、知識を経た若者が“戻りたい”と思える故郷を目指す。

外部の新しい価値観や考えをもった人々が行き来し、交流する場をつくるのが、未来の地域づくりに繋がると考える。

## 2. 日立市の概要と人口動態

### 2-1. 日立市の概要

日立市は茨城県の北部に位置し、1920年の株式会社日立製作所設立により日本有数の工業都市へと成長した。

人口：180,781人  
面積：225.6 km<sup>2</sup>  
人口密度：801人/km<sup>2</sup>  
(出展：国勢調査(2017))

### 2-3. 現状 若者の県外転出

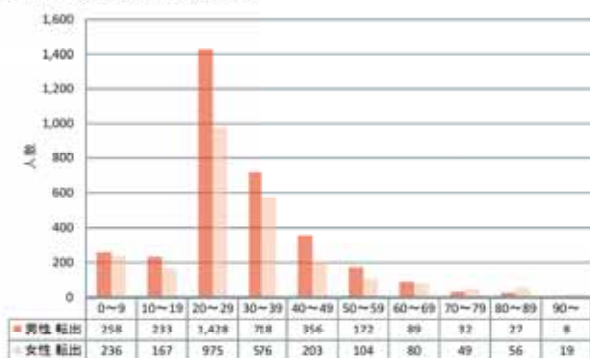
日立市では、2013年から4年連続で1,000人以上の県外転出超過が続いており、2016年度の転出超過人数は、1,250人と全国で9番目に大きな数字となっている。

(【表1】)

【表1】 市町村別転出超過人数全国ランキング (国勢調査2017より資料作成)

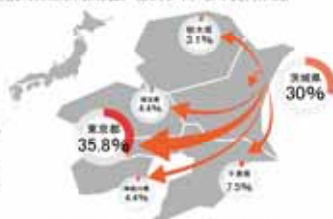
順位	2013年	2014年	2015年	2016年
1	横須賀市 1,772	北九州市 2,483	北九州市 3,088	北九州市 2,623
2	日立市 1,485	日立市 1,590	横須賀市 1,785	長崎市 1,574
3	長崎市 1,373	東大阪市 1,427	長崎市 1,574	熊本市 1,540
4	豊田市 1,261	豊田市 1,397	日立市 1,504	東大阪市 1,507
5	長崎市 1,244	長崎市 1,257	青森市 1,436	青森市 1,353
9				日立市 1,250

また、【図1】から分かるように20～30代の転出が全体の大部分を占めており、大学進学や仕事、結婚などの要因によると推測される。



【図1】 日立市性別年齢別転出数 (日立市人口統計(2016年)より資料作成)

【図2】から分かるように、若者の大学進学先は、東京都の割合が最も大きくなっている。(茨城県は、東京都に次いで二番目となっている。)

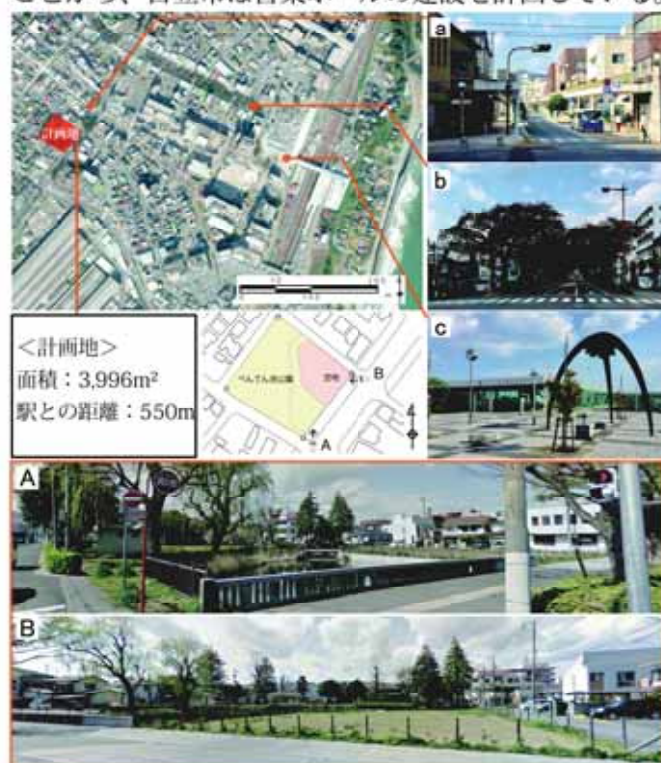


【図2】 県外への大学進学状況 (茨城県学校基本調査(2015)より資料作成)

## 3. 計画地の概要

べんてん池公園と、公園に面する空地を一体的に捉え、今回の計画地とする。空地は、消防署が移転した2008年以降利用されていない。

計画地内に音楽の神様である弁天様が祭られていることから、日立市は音楽ホールの建設を計画している。



## 4. 計画地周辺状況

### 4-1. 商店街の状況

計画地周辺には、まいもーる・銀座モールという2つの商店街がある。

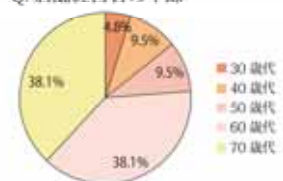
しかし、近辺への大型ショッピングセンターの進出

などにより、現在は約半数が空き店舗となっている。(【図3】) また、【図4】から分かる通り、経営者の高齢化と、後継者のいる店舗が少ないことが課題となっている。まちのリビングスペースとして住民を繋いできた商店街が衰退することにより、地域を支えてきた交流機能が失われつつある。

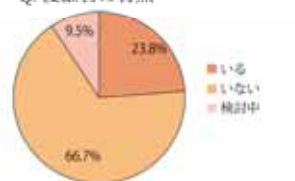


【図3】 計画地周辺商店街の立地状況

#### Q. 店舗経営者の年齢



#### Q. 後継者の有無



【図4】 まいもーる商店街の経営状況 (日立市まいもーる商店街活性化アンケート(2017)より資料作成)

#### 4-2. 教育施設の立地状況

計画地は、日立駅から550mの距離に位置する。周辺には託児施設・小学校・中学校・高等学校・専門学校など、教育施設が半径1km圏内に7ヶ所ある。



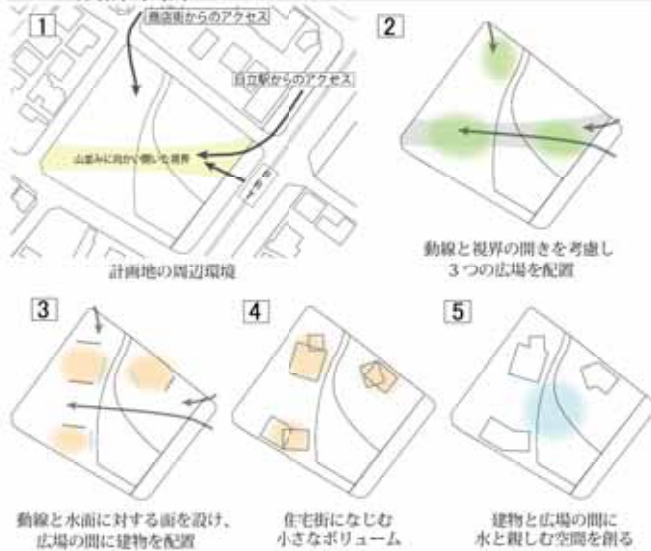
【図5】計画地周辺教育施設の立地状況

### 5. 提案

#### 5-1. コンセプト

幼少期から、生活の中で多世代・多様な人々と交流する機会があることは、「地域の中で育った」という認識につながる。また、子供達が学び、成長していくためには、子供が遊ぶための公園ではなく、子供・学生・大人・シニアが、多様な目的を持って集まる場が必要だ。そこで、このような機能を満たし、計画地の特性を活かした「音楽」をプログラムの軸とする、多様な交流の生まれる空間を提案する。

#### 5-2. 設計手法



#### 5-3. 平面計画



【図6】平面図 (S-1/2000)

#### 5-4. プログラム

##### 【カフェ】

まちのお母さんたちがシェフとなり、日替わりのメニューが提供される。水の流れ、音楽、子供たちの声、人の賑わいを感じられる、ダイニングとコミュニケーションの場。



<施設面積>: 216㎡ <収容人数>: 50名 <主な用途>: カフェ

##### 【音楽ホール】

シニアバンドや学生バンド、楽器講習会、カラオケ大会など、毎週多彩なイベントが開かれる。音楽が会話や出会いのきっかけとなり、新たなコミュニティが生まれる。ガラス張りで一部可動式の壁からは、賑わいが街に滲み出す。



<施設面積>: 237㎡ <ホール面積>: 180㎡  
<収容人数>: 80名(椅子)・120名(椅子+立見)・160名(立見)  
<主な設備>: 音響機器・ドラム・ピアノ・マイク・プロジェクター

##### 【管理窓口とコミュニティスペース】

掲示板には月ごとのイベント情報が並ぶ。商店街のお惣菜を食べたり、放課後に勉強したり、自由にくつろぐことのできる、まちのリビングルーム。



<施設面積>: 147㎡ <収容人数>: 35名  
<主な用途>: コミュニティールーム・プレイスペース・管理窓口

### 6. おわりに

本提案により、「自分を待っている人たちがいる。」「帰る場所がある。」そんな思いをもった子供たちが、地域の未来を築いていく。

参考文献: 1) 小さな風景からの学び / 著 乾久美子 2) 広場のデザイン / 著 小野寺康  
3) 建築計画・設計シリーズ 公民館・コミュニティセンター / 著 有田桂吉  
4) 中心市街地の再生 / 著 中野みどり 鈴木俊治 安達正範